

## 令和5年度第1回徳島県周産期医療協議会 議事録

### 1 日 時

令和5年8月1日（火）午後7時から午後9時まで

### 2 方 法

オンライン会議（Zoom）

### 3 出席者

#### （1）委員（15名）【五十音順・敬称略】

苛原 稔（会長）、漆原 真樹、加地 剛、岸 麻紀、岸 陽子、桐本 雅史  
佐藤 純子、田山 正伸、中川 竜二、春名 充、船戸 豊子、前川 正彦  
宮崎 達志、横山 敦子、渡辺 浩良

#### （2）オブザーバー

岩佐 武、森内 洋美

#### （3）事務局等

県保健福祉部（健康づくり課，医療政策課・広域医療室），消防保安課，  
病院局，こどもまんなか政策課，各保健所等

### 4 会議次第

#### （1）開会

#### （2）議事

議事1 乳児・新生児死亡率の状況について

議事2 第8次徳島県保健医療計画（周産期医療関係）の策定について

議事3 周産期医療協議会各専門部会からの報告について

（1）母子保健専門部会報告

（2）災害対策部会報告

（3）妊産婦メンタルケア部会報告

（4）産科医・小児科医の働き方改革を含めた医師確保のあり方検討部会報告

議事4 その他

（1）リトルベビーハンドブックの作成について

（2）第8次徳島県保健医療計画（母子保健対策）について

#### （3）閉会

### 5 議事の概要

#### （1）乳児・新生児死亡率の状況について

（事務局）令和4年人口動態統計（概数）について【資料1】

（中川委員）2022年のNICUの現況について【追加資料】

(苛原会長) ごらんのようにですね、今から10年前は全国ワースト1を4年間続けて全ての周産期死亡率・乳児死亡率等があったんでありますが、産婦人科・小児科の先生方のご努力あるいは県の方のご支援様々なこと、あるいは不妊関係もですね墮胎を減らすなど努力をしていただき、また、新生児仮死への対応もですね非常にスムーズに行っていたできるようになったということもありまして、全国でトップの良好な成績を得るまでになったということで、非常にうれしく思っております。この10年間努力してきた結果ではないかなという風に思います。今後は是非ですね、中川先生もちょっと仰ったんですけど、分娩施設が少ないので、ちょっとした異常が発生すると順位というのは前後いたします。今後はやはり一つはさらに重症新生児への仮死への対応、これの改善とともにまた神経的なも含めた先天性異常のできるだけそういうものに対する対応をしていくということが今後の残された課題なのかなという風に考えているところであります。いい報告ができて良かったんじゃないかな思っております。ぜひ先生方、今後ともこれを続けていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

## **(2) 第8次徳島県保健医療計画(周産期医療関係)の策定について**

### **○健康づくり課より**

(事務局) 第8次徳島県保健医療計画(周産期医療関係)の策定について【資料2】

(苛原会長) 資料2-3はこれは厚生労働省の通知でありますので、これは参考ですよ  
ね?

(事務局) はい、参考になります。

(苛原会長) 今日ここですね、これを全部チェックというわけにはいきませんので、多分2-2の資料をちょっと見ていただいて、何か気づいたことがあれば県の方、あるいは私におっしゃっていただければいいわけですけど、この2-2がですね計画案の基本になるものだというふうにお聞きしましたので、これを少し踏まえて見ておいていただければと思ひますが、いかがでしょうか?佐藤先生、どうぞ。

(佐藤委員) 10ページのところ、災害時における周産期医療体制の整備のところなんですけれども、この度の国の指針の方で浸水対策というのが新規になったということで、②のところの書き振りなんですけれども、これまでであれば自家発電の保有とかいうようなところだったんですけど、今回浸水対策ということなので自家発電機等については高所移設、それから排水ポンプの設置と止水板等の設置ということでの止水対策と、三本柱が新たな浸水対策ということになっておりますので、ちょっとこの書き振りがこれでいいのかなと思ひましたので発言させていただきました。よろしくご検討お願ひします。

(事務局) 佐藤委員さんの意見を踏まえまして、浸水対策ということも盛り込みまして、またご提案させていただきたいと思ひます。

(苛原会長) 最近、ゲリラ豪雨もあつたりいろいろするわけでありまして、そういうことも踏まえないといけないんでしょうかね。他にいかがでしょうか？春名先生、どうぞ。

(春名委員) 3ページ・分娩施設なんですけれども、たしか苛原先生、診療所4つですよ？来年3月で1つ減って3になる予定ですよ？分娩施設の診療所が6つ書いてありますけど現在実際稼働してるのは4ですよ。

(苛原会長) これは令和4年の話ですので。令和5年で新しいデータに基づいて作り直していただくと思います。県の方にも情報はお伝えしました。

(春名委員) はい、わかりました。

(田山委員) 私は協議会に10年以上参加しまして、いろんな数字が上昇し全国1位になったのはほんとうに喜ばしいことで、みなさん方の努力に本当に敬意を表します。ここでこのことを維持する為にはやはり人材ですね、医師・その他のパラメディカルも含めた人材育成という言葉が欲しいのかなと思ってます。で、まだ書けていない医師の数、産婦人科医、小児科医もうかがいますし、それから後から問題になりますのは働き方改革も含めますとやはり人材育成という言葉をこれで今後の目標としてですね、あげていただくことが必要じゃないかなとおもって、9ページですかね。今後の取り組みということで周産期医療体制の強化というところで、そここのところでやはり安定した医療体制を構築するためにはやっぱり今後の人材育成を更に強化していくということが必要じゃないかなとおもっておりますので、ご検討いただけたらなとおもっております。他の所での分野での協議会にもこういった計画を練ってるんですが、人材育成とか、そういった研修とかいうところではすごく強化された文章がありますので、検討いただけたらな、とおもっておりますのでよろしくおねがいたします。

(事務局) 田山先生の仰るとおりこの医療体制の強化の②が産科医・小児科医の確保のことを書いておりますのでその中に含むか、③で記入するかはこちらの方で検討させていただいて、また確認いただければとおもっております。

(田山委員) ありがとうございます。もう一つなんですけど、多分これは中川先生に発言求めた方がいいのかな。数値目標で新生児死亡率を上げられているのを乳児死亡率にしたらいいかどうかっていうのをですね、私もそこを、中川先生にご意見いただいた方がいいのかなとおもいまして。

(中川委員) まあ、あくまでもここは周産期医療協議会ですので、やはり産科の先生方、それから小児科の先生方のクロスするところというところで、乳児死亡率までいきますとやっぱり生後1か月以降の乳児死亡がかなり入ってきますので、やはり我々小児科医が責任を持って担当すべきところではないかという考えもありますので、そこまで対象を広げるかどうかというのはやはり議論があるところではないのかと個人的には考えております。ですから、周産期医療協議会としてはこの現状の周産期死亡率の改善をなんとかこの

10年間で果たしたというのを現状可能な限り維持するということに努めて、余力があればですけれども乳児死亡の改善にも努める、ただその乳児死亡の改善においては、その虐待の予防である、それから突然死の予防である、この2本の柱がどうしても必要となってくるので、全県下の小児科の先生方のご協力が必要かと考えております。

(苛原会長) 事務局、2-1の資料を出していただけますか。一つはですね、国の改定指針が出ておりますけれど、今後の策定のスケジュールということで今日が8月1日、これ拝見して意見をお伝えするのはいつ頃までというのが一つの目安になりますでしょうか？

(事務局) 最終案はこのスケジュールの中で10月下旬にある第2回の医療審議会で素案審議をしていただきますので、できましたらそれまでにいろんなご意見を投げいただければとおもっております。

(苛原会長) そうでしたら、9月中、あるいは10月の頭くらいまでと思ったらよろしいですね

(事務局) そうですね。それでご意見いただいて、またそのご意見を集約しましてこの素案の中にどういう風な形で入れるかというのを先生方にメール等でお伺いして、この医療審議会にかけられるような素案を作りたいと考えております。

(苛原会長) わかりました。もう少し下を見せていただけますか。はい、ここなんですけど。改訂に伴う主な変更点ということで、これは我々が今まで周産期協議会で取り組んできたことが、そのまま続けて活かせるんじゃないかなとちょっと思っています。徳島県における周産期医療体制の整備の中で新興感染症うんぬんとありますが、これはコロナでも非常に苦勞をしていただいた先生方が多いと思いますが、これは災害対策にも非常に関係をするのだと思いますので、災害対策小委員会もっておりますのでまたその辺りで意見がありましたら出していただければと思います。それから周産期の医療機関とその連携ということなんですけど、ハイリスクについては今まで努力をしていただいてきた母子保健専門部会ですね、中川先生、加地先生等を中心にしてやっていただいておりますので、そういうことにたいしても今後とも目を見張っていただくと、それから母子に配慮した周産期医療の提供が可能な体制というのは、これは多分、いろんなことがあるとおもいますが妊産婦のメンタルケアの問題というのが大きくあり、かつ先ほど話題がでましたけども乳児死亡にも繋がっていきますので、そういうところで少し意見をもしなにかありましたらいただければというふうに思っています。それから医師の勤務環境の改善が可能な体制ということで後でお話があると思いますが働き方改革を含めた在り方のところでも検討していただく、ということになると思います。各医療機関の連携につきましては、今後ですねこの中でその勤務環境とも関係はあるんですけど、やはりあのご存じのように2026年でしょうか、次の次の改訂、保健改訂の時に分娩費が保険適応になるかもわからないというふうな状況の中でこういうその内容については産婦人科を中心として小児科の先生とも連携を取りながら一緒に検討をしていくということが大事なんじゃないかなというふうに

思いました。それぞれの小委員会でももう少しそういう点で内容を踏まえながらご検討いただけるように思っているところであります。

(加地委員) 令和6年からの計画ということで、計画を考えることに当たって、その先の出生数の見込み、各地域の出生数の見込みとかを県の方で出していただかなければ将来的な体制を考えるにはやっぱり見込みとか予想がないとちょっと考えにくいんじゃないかなと思ったりしました。

(苛原会長) その通りであります。令和4年は4100くらいですか、そんなところだったということなので、まあどのあたりがっていうのは県の方は何か掴んでおられますか？

(事務局) 今はそのような数字は持っておりませんので、確認してみます。

(加地委員) 年間200出生減っているということは6年間で1200減ると思うんです、今後。今から1200減ればまた状況が全然違うのかなと思ひまして、ちょっとやっぱりその減ることを見越して検討してもいいのかなと思ひたりもしました。

(苛原会長) 先生の仰るとおりだろうなと思ひますが、まず、数がどのようになるかはこれまた県の方からも情報をいただくということで、医療機関の連携については先生の仰るようなことを中心に小児科、産婦人科の勤務環境の改善も踏まえながら一緒に検討していきたいという風に思ひているところです。やはりこれは、きっちりやっぺいかないと難しい問題がいっぱいあると思ひますので。

(横山委員) 日頃は看護協会活動にご理解ご協力いただきまことにありがとうございます。今回の第8次保健医療計画におきましては、資料2-2の6ページに母子に配慮した周産期医療の提供が可能な体制ということで、院内助産、助産師外来、産後ケア事業の実施の推進とか、産後鬱とか災害対策とか様々な施策が重点化されているかと思ひます。徳島県看護協会でも令和元年度から助産師活用推進事業としまして、助産所と医療機関の連携とか院内助産の支援なども行っております。また、7月23日には助産師研修会として「周産期医療の現状と課題について」について2024年の医師とのタスクシェアに向けた取り組みについて全国的な動きについて日本看護協会常任理事から県内助産師の皆さんに情報提供を行っているところです。資料を画面共有していただきたいとおもうんですけれども、今後の研修予定といたしまして9月2日には京都大学大学院のドーリング景子先生から「継続ケア～助産師に期待される役割と連携について～」を開催いたしますし、また産後ケアにつきましては助産師と保健師の連携も非常に重要であるということから10月22日には静岡県島田市から保健師の方に来ていただいて「島田市版ネウボラの取り組みについて」直接お話をお伺ひする予定となっております。このような看護職に向けてのいろいろな取組を実施しておりますのでぜひご活用いただいて、人材育成とか県内の周産期医療体制の充実にご協力いただけたらと思ひますので、また引き続きよろしくお願ひいたします。

(苛原会長) 情報提供ありがとうございました。それでは10月の頭ぐらいまでに、資料2-2についてご意見がありましたら、あるいはここをこう直したらいいんじゃないかということがありましたら、県の方あるいは私の方に教えていただければ有り難いかなというふうに思っております。

### (3) 徳島県周産期医療協議会 各部門からの取組報告

#### ○母子保健専門部会より

(加地委員(部会長)) 徳島県周産期医療協議会 母子保健専門部会からの取組報告について【資料3】

(苛原会長) 実技講習については、小児科医会とか産婦人科医会でご相談させていただき、どこでどうするのかっていうのを少し検討しましょうか。協議会でこういう具体的なことまでちょっとどうするかってとこまで踏み込めないと思いますので、また田山先生とか田口先生とご相談しながら、小児科医会とも一緒になって進めていきたいなというふう思っております。田山先生、それでよろしいでしょうか？

(田山委員) はい、ありがとうございました

(苛原会長) それから先ほども言いましたが、プレコンセプションヘルスケアの一つで、先天性の異常なんかを予防する為にはやはり早期の葉酸の摂取とか、さまざまな働きかけが必要だと思いますので、また先生、そういう点もお考えいただけたらというふうに思っています。RS ウィルスについては最後に中川先生からお話しただこうと思っています。

#### ○災害対策部会より

(前川委員(部会長)) 災害対策部会からの取組報告について【資料4】

(苛原会長) さまざまな取組をしていただいているんですけども、今年は技能維持研修というのを、今までリエゾン取った人が行くんですけどよね？

(前川委員(部会長)) その件で中心的な役割を担っている先生方に参加していただくような趣旨のようです。

(苛原会長) 災害は忘れた頃にやってきますので、少し最近南海トラフ地震のことも頭の中の片隅になっていってるような気がしますが、こういうときはちょっといろいろ問題が発生する可能性もありますし、集中豪雨も多いですので、先生、よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### ○妊産婦メンタルケア部会より

(春名委員(部会長)) 妊産婦メンタルケア部会からの取組報告について【資料5】

(苛原会長) 非常にこれも重要な課題であると思いますが、乳児死亡率を下げるのにやはりメンタルケアについては余程十分な対応が必要じゃないかなと思っております。去年もまた、そういう意味では可能性のある事例もあったように聞いておりますので、これは注意をしていくべきところだとも思います。

(佐藤委員) 女性のメンタルヘルスに関しまして、徳島保健所の方で研修会を予定しておりますので情報提供させていただきたいと思います。まだちょっと先になりますが12月7日(木)午後ということで女性のメンタルヘルスに関しまして京都大学婦人科学・産科学教室の江川美保先生にご講演をWEBでお願いしております。こうして江川先生を講師にお願いしました背景としましては、日本精神神経科診療所協会というところが今年の3月に開催しました「女性のメンタルヘルスから見た自殺予防」というシンポジウムがありまして、その中のお一人のシンポジストとして精神科と産婦人科の共同を目指してというふうなテーマでご講演をされていて、大変素晴らしい内容だったということで今回徳島保健所の方でも研修会を予定しております。また近づきましたら関係者や皆様方にもご案内もさせていただきたいと考えておりますのでふるってご参加いただければ幸いに存じます。

(苛原会長) また県を通してでも結構ですので情報を、詳細が決まりましたらお伝えいただければ有り難いかなと思います。私の方でお伝えする方法を考えますので。

#### ○産科医・小児科医の働き方改革を含めた医師確保のあり方検討部会

(岩佐部会長) 産科医・小児科医の働き方改革を含めた医師確保のあり方検討部会からの取組報告について【資料6】

(苛原会長) 宿日直の許可の問題が非常に大きくなってきていますので今後ですね状況を踏まえましてよろしくお願ひしたいと思います。

#### (4)その他

(中川委員) リトルベビーハンドブックの作成について

(苛原会長) 先生のご努力でだいぶ進んできたように見受けられますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。各県でも進んでいるとは思いますが徳島県の特徴として、いわゆる小さな1500グラム以下の子だけじゃなくて、NICUに入った経験のある人も含めた内容にするというのは非常にいいことかなと思いますのでよろしくお願ひしたいと思います。

(こどもまんなか政策課) 第8次徳島県保健医療計画 母子保健対策について

(苛原会長) 母子保健ということで、先ほどの周産期医療面については、まあ両方とも大事なんですけど、周産期医療に関してはもう絶対にやっていかないといけない、どちらか

という問題が発生したのに対してどう対応するかということなんですけど、この母子保健については施策として積極的に進めないといけない項目だろうと思います。ですのでアイデアに基づいて非常に重要な内容を含んでいますのでぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。これもあれですかね？意見がありましたら10月の頭くらいまでにお伝えしたらよろしいでしょうかね？

(こどもまんなか政策課) 同じ時期に担当の方までいただけたらと思ひます。

(佐藤委員) 子供の健康づくりへの対応のところでは、生活習慣病のことも書いていただいているんですけど、今、子供たちにとりましてスマホ・ネット・ゲーム依存というようなことでそういったことも問題が非常に大きくなってきてますので、その辺りも盛り込んでおいていただけたらと思ひて発言させていただきました。

(こどもまんなか政策課) ありがとうございます。そちらの方も検討していけたらとおもひます。

(苛原会長) 事務局、他にこれ、母子保健に関してはないですよ？そしたらですね、内容をまた見ていただきまして、ご意見がありましたらぜひお寄せいただければというふうにおもひます。そしたらもうひとつ、中川先生から最近乳児を含めて非常にRSウイルス等が流行っているどうですので、そのことについてお話いただきます。

(中川委員) 2023年徳島県におけるRSウイルス感染症の現状について

(苛原会長) 小児科の先生は今、感染症の対応で非常に大変な状況でありまして、早く収まってくれることを望むところではありますけど、まだまだちょっと続きそうかなという感じもしないでもないんで、先生方よろしくお願ひしたいと思ひます。それから中川先生ね、僕は詳細よくわからないんですけど、以前、どこの製薬会社か忘れちゃったけど、妊婦さんにね、RSのワクチンを打つたらということをやっぴり将来的に考えて欲しいっていうのを、まだ発売してないんだと思うんですけど、あったんですけど、それはどこまで現実的になつてると、中川先生なにか情報をお持ちですか？

(中川委員) たしかフェーズ3まではワクチンについてはいってるんですけども、ただその妊婦さんへの接種による移行抗体がどの程度有効であるとか、それとかこのRSウイルスについては早産児がやっぴりターゲットになりますけども、そもそも早産児は母胎からの経胎盤的なIGGの免疫の移行が少ない時期ですので、はたして母胎にワクチンを打つことによってどこまでその早産のRSを予防できるかというのは甚だ疑問、というそういう意見もありますのでまだ妊婦さんに対するRSウイルスのワクチンがどこまで有効かというのはまだなんとも手探りというのが現状だと思ひます。

(苛原会長) またそういうことが進むようでしたら教えていただいて、我々も対応してい



くべき時はいかないといけないかなと思っているところです。

(田山委員) 中央病院の小児科が満床でいっぱいですけれども、日赤、市民病院、その他の病院にも協力していただいています。小児科の診療所は発熱外来はこの感染症がほんとに多く、それに今コロナも増えておるとい状況で本当に逼迫しておりますが、なんとか小児科のメーリングリスト等で状況をやっております。今後とも感染症等で協力したいと思います。中川先生、ありがとうございました。

#### ○全体を通しての質問・発言等

(田山先生) こどもまんなか政策課でしたか、資料全部は把握できてなかったんですが、小児で問題になるところは貧困、子供の貧困なんですですね。貧困という文言があるか確認をお願いしたいというのが一つと、母子関係でいいますといわゆる愛着障害といえますか、母子の関係でそくいたところから一見発達障害に見える子供たちがやっぱり愛着障害がある、愛着形成がうまくできてない、というところがありますのでそういったところの愛着形成、愛着障害、それから子供の貧困というところの文言があるかどうか 確認をお願いしたいと思います。

(こどもまんなか政策課) 確認した上で御回答させていただきます。

(中川先生) 先ほどお話しさせていただいた通り、このシナジスの投与時期というのはそれぞれの各年度における RS ウィルスの流行に応じて迅速に柔軟に対応しなければいけないというのが全国でも問題になっています。で、徳島県はこの周産期医療協議会で投与方針を決定していただいているので、全県下的に速やかに流行の変化に応じて対応できると言うことで、全国的にもかなり珍しい例というふうにメーカーの方から聞いておりますので、今後も引き続きこの周産期医療協議会でシナジスの投与方針についてご支持いただければ、非常に我々小児科医としては助かるので今年度及び次年度も引き続きご検討いただければと考えております。

(苛原会長) はい、ありがとうございます。できるだけ方向性、同じ意見ですのでそのように進めていきたいと思えます。また情報は先生の方からいただかないとなかなか難しいので、またそのようにさせていただければと思えます。そしたら、その意見があったらというのは、周産期医療については今まで通り事務局に、母子保健の所はこどもまんなか政策課のところにといいことでよろしいですかね？

(事務局) 委員の皆様はこちらの方から改めてメールでお知らせしたいと思います。そのときにこどもまんなか政策課さんの資料も添付し、回答はどちらの方にといいことも記載させていただいてメールをお送りさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

(苛原会長) これ、あの計画の中では別々の項目になるんですか？

(事務局) そうなります。

(苛原会長) わかりました